

「歯を守れ！ 予防歯科に命を懸けた男」 竹田晋也著

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科衛生士 山中 奈菜

MTMを本格的に開始してからもうすぐ7年、私がDHとしておおくぼ歯科クリニックに就職してからもうすぐ7年。日吉歯科の本当の予防歯科をみて、見学させて頂いて、海外研修までいかせていただいてDHとしてすばらしい経験をさせてもらっています。そこからその場一時を診るのではなく、一人の口腔内の生涯を診ていく、そこに予防歯科の本来の価値があることは自分の中で理解していました。でもどうしても担当患者さんからの「歯を守りたい」「一生自分の歯で食べていきたい」という反応がまだまだうすい気がします。

本を読み終わった後に再度「カンブリア宮殿」を観ました。この本に出てくる方々みなさんから歯を守りたいという情熱をひしひしと感じました。特に印象に残ったのは日吉歯科のスタッフの方々のセリフ、患者さんの声です。

日吉歯科のスタッフの方々は患者さんの歯を守るために患者さんに伝えていきます。口腔内写真に写るプラークのことを「黄色い汚れは要注意」というセリフのように言葉が簡潔にまとまっていて聞く側もすっと頭に入ってきそうです。「人間の歯は3層構造」や探針のことを「先っちょ」、うがいができにくい小さい子には「もぐもぐするようにしてみよう」など。プラークを「細菌」と言うだけで特に年配の方はカタカナより漢字の方が理解しやすいのかもしれないと思いました。専門的な言葉は使わない。あくまでも患者さんに伝わりやすい言葉を選んで伝える。歯を守るという思いが込められた言い回しが勉強になりました。伝え方の引き出しが増えました。これらの伝え方をそっくりそのまま暗記して患者さんに伝えたいくらいです。

いつか患者さんに「おおくぼ歯科クリニックは学校のような存在だ」と感じてもらうような言ってもらえるようになるまで、ぶれずにやっていかなければと気が引き締まりました。